

詩的想像力と狂氣

(ドイツ)

高坂正顯 譯

一八八六年八月二日

軍醫學校創立記念日祝賀演説

當軍醫學校創立記念日にあたり、諸君にお話しを致す御許るしを得ますのは、こゝに醫學の研究と哲學との聯絡を保持し得た〔當校創立者の〕賢明確乎たる意志のお蔭であります。(「そもそも」の聯絡により、ガッレイの當時から自然認識の英雄達は、包括的なる諸概念の明晰と、感激の熱とを得てきたのです。かくあらゆる生の最深の根底を考察する所から生ずる光明の幾分かは、醫術の上に、又醫術を施す人の上にも存すべき筈です。十九世紀に到り、心理學が生理學の手に於て經驗科學に發達しますにつれて醫者の職務と哲學的思索と

の間に新らしい繫帯が生じました。心理學は醫者に缺く事が出来ません、たゞに精神病學の補助學としてばかりでなく、物體的過程に限られた彼の研究を補足するものとしてもしかるのです。ピポコンデルの知覺過敏から狂人の妄像ワレンイデーに到るまで醫者は絶えず精神均衡の錯亂と闘ふてゐます。彼は己れの働きを、彼が踏み入る家の友人としていなければ充分に伸ばす事は出来ません、でそのためには心の内を讀む能力を要します。まことにこの激しい自由競争の世に於いてさへ尙、人道的教養と人間的なるもの、理解とは、彼にとつて力強い救助策なのです。現代に於ては更に他の繫帯が結びつきます。術としての醫學の概念は有力なる醫

者によつて繰り返へして高調されてゐます、けどし應用自然科學としての醫學の限界は極めて除々に外擴大されないからです。それでもしこの方向を徹底しようと欲するならば、醫學は思想の陶冶従つて精神教養としての哲學と、再び親密な關係に入らねばなりません。

我々の心理學はかゝる必要に應ずるものです。心理學は既に經驗科學になつてゐます。ヘルバルト以來心理學は一層成就せし姉妹なる自然科學より學ばん事を努めました。ウェーバー、フェヒネル、ロツチイ以來は精神過程と、物體過程との關係を追究しました。そこで既に今日に於いては、心理學は、基礎的な過程から溯つて健全なる、並びに病的なる精神生活の現象に及び遂には天才の働きをも含めて記述的に且つ或る範圍内に於いては説明的に抱括する形像をば醫家に呈供し得るのであります。この事を私は抽象的に論じようとは思

ひません、たゞ例證によつてお示ししたいと思ひます。私は、精神生活の最高の働きの一つを選びます。その根は深く物的なるものに達し、その夢と精神病との類似が屢々高調される所のもの即ち、詩人の想像力であります。

既に古人が詩人の想像力と、夢、幻覺及び妄像との類似に注目しました。デモクリットは言ひました「大詩人にして何らかの神的狂氣なきを考ふる能はず」。プラトンは説明しました「この神的狂氣の働きは、單なる藝術的悟性の働きによつては決して達し得られず」セネカによればアリストテレスは主張しました「*nullum magnum ingenium sine mixtura dementiae fuit.*」そしてホラアツは詩的感激を *amabilis insaniam* と呼びました。それ故にこれは古代詩論の動かぬ定説であつたのです。さて近代の人々は。シルラーは「あらゆる特異の創造者に於いて」見らるゝ所の「しばしの狂妄」に

ついで語りました。ゲエテはタツソーに於いて天才と人生との不和、及び天才の想像力と狂氣との類似を描いてゐます。ついでショーペンハウエルは、その天才の病的素質に關する理説を建て、己が天才に悩むと信するすべての人々の賞讃を博しました。彼によれば、強大なる大脳活動が天才人に異常な感性を與へるのです。彼に於いてはすぐれてひいでた知性が意志の服役から離るゝために、彼の全き孤獨と深き憂愁とが惹き起されるのです。彼が時代とその種々の因果的關係とを超越してゐる事とは、彼を正に狂氣の近隣にもたらしめず、狂氣とは記憶の疾病なのですから。フランスに於いては、その見解は精神病學説によつて花々しく粧はれてゐます。まことにフランスは、たゞに偉大なるビネル以來久しく精神病學の中心であつたばかりでなく、又精神病學的空想のそれでもあつたのです、まことに之等の空想は我々の

自然哲學のそれと並べられ得るものでありませう。唯物論のロマンテイクなのであります。ルノーダンは主張しました「その最も美はしき感興を幻覺に負ふ所の天才はまことに一人には止らない」。ルルーはソクラテスのデモンをばかゝる幻覺として理解し、モルーは「天才とは一般に健康の限界のあなたに横はる高揚の状態である」と云ふ事をその龍大な著書に於いて證明せんと欲しました。之等のバラドックスの底にまことの問題が潜んでゐるのです。「何故かならば天才と狂氣との類似の奥には、言はゞ」自然自身が我々のために、藝術的想像力の最高の働きを通じて、又覺醒時の常規を逸する〔狂氣の〕状態を通じて、凡らくは歸納的推論を可能にする所の、種々の實驗をして見せてゐる〔とも考へ得る〕のです〔から〕。何故かならば、天才と狂氣の状態とは種々の點に於いて大に異つたものでありますけれど、想像表象の強き事、明白

なる事、及び現實を超越して自由に想像が發展し行く事とは、それ等すべてに共通でありますから。さればこゝに想像表象の展開を研究する事が出来るわけです。

I

我々は、醫學上正當と認められる推論の方法に従ひまして詩的天才と呼べる、一見病的なる状態の種々の徴候から始めませう。我々はたとへば詩人の脈をとり熱を測つて、はたして彼が本當に病氣なのかどうかを知らうと思ふのです。天才は一般に常人の常規を逸した特色を示してゐます。精神過程の異常な力強さ又輕快さ。それに對する生き／＼とした喜び、従つて自由に且つ眞摯に制作し創造する事は彼等にとつて眞に生の要求であります。之の要求を天才は人生の取引に於ける他の目的のために決して犠牲にする事は出来ません。

それ故に彼は一般の習俗と矛盾に落ち入らざるを得ないのであります。そこで彼がその深き思慮の眼を特に彼自身の生の關心に振りむけた際には、容易なるものも困難に、平凡なるものも深刻に、或は憂鬱に或は熱烈に感ずるのであります。が凡俗の世人は常に之を非實務的と云ひ、空想的であるときまで云ふのです。天才に於いては、精神的蕩醉を味ふ事なき俗人に於けるとははるかに屢々、神經系統の過度の興奮が起らざるを得ません。これに加はるに詩的天才に於いては、更に一層彼を常規を逸した精神状態に接近せしむる所の深き體制上の條件がつけ加はります。彼はあらゆる經驗を絶した人物を創造します。我々の時代の現實主義者は現實を模寫することを誇りにして、小心にモデルを模ねて制作してゐます。けれどもいつでも偉大な詩人の特徴は、あらゆる經驗を超越したしかもそれによつて一般の經驗がよりよく理解

され、また我々の胸により近く導かれる一つの典型を創造することにあるのでありませう。ですから創造的な想像は、祕かに人間的なるもの、限界から引き出されて偉大なる行爲或は犯罪の怪異なるものに、或は又この冷酷なる世界の内を、やさしき影の如くに通り過るまことに清められし魂のいと憐れなる様に不思議と索引を感じるものなのです。我等が地上の死すべき人間の生活のあなたに言はゞ想像の天空がひろがつて、そこには不死の人物が憩ひ且つは動いてゐるのであります。プロメトイス、アンチゴーン、ドンキホーテ、ハムレット、ファウストそしてサンキョバンザ、自惚れの病人ファルスタッフ、まことにビツクウィツク氏までもその一員であります。我々は現實の人どの如くに之等の人々と共に生活し、或は愛し或は憎み、或は嘲り、遂に彼等を缺く事が出来ないのです。〔こゝに我々は天才のもつ〕極度に異常な

一つの徴候〔を發見した譯です〕。それは即ち我々のすべてに立ちまさりすべてを超えて生き永らへるかゝる不死の人々を創造し得る想像力の事なのです。詩人に於ける精神過程は亦極めて驚ろくべきものであります。彼はその人物と境遇とを眼のあたり知覺する如くに見るのです。ですから彼にはそれ等の人物が眞實のものゝ様に思はれるのですが、そのためにそれ等のものは幻覺に近よるのです。彼は自分の描き出した人物と共に現實の人間に對する如くに生活し、その人々の苦痛を現實の苦痛の様に感ずるのです。彼は自分の身を主人公達の身にをき變へて、その身になつて感じ、考へ、話すのです。きまじめな詩人的職工から出發する道學者的な見解とは反對に、ルソー、ゲーテ、バイロン、アルフィエリ、ディッケンス等デモニッシュな人達の傳記的研究は、彼等の精神生活が全く祕密にみちた、異様なものと見え、又それ故に

彼等の心的過程がいつも夢と狂氣とを思はせるほどの感性組織の力強さと、根本的な、不可抗的に働く空想の構成衝動とを示してゐます。何故夢と狂氣とを思はせるかと言ひますに、夢を見てゐる人もやはり、自分の創り出した人物に自分自身の心底を附與してそれからまるで現實に對する様に彼等を恐れたり驚ろいたりしますから。且つ精神病患者に於いては、そのすべての事が幻覺と妄像に高まつて行き、彼自身の自我は没し去て、自分を再び他人として見出す事が出来るからです。この類似はここに基くものでありませうか。こゝで以上に現れた徴候から推論を進めて今や「原因の認識」を始める事が出来る事になります。

II

私は、夢を見てゐる人、催眠状態にある人及び狂人が藝術家或は詩人と共通な點は現實の條件に

制約されずに心像、並びに其結合の自由な構成をなし得る事にあると思ひます。之の事はダンテ或はミルトンが天國の幻を見る時に、或は小さな室に夢見る人が星から星へと飛ぶ時に或は、痛ましき人間ざらひの殆んど狂してゐるジャン、ジャックが脅迫觀念の布を織り出す時に、現はれてゐます。すべて之等の非常に異なつた場合に於て、自由な心象の構成は、通例、表象を統制して、現實に對する明確な關係にそれを保つ所の種々の條件からの獨立と云ふ事によつて説明されなければなりません。さて私は、之等の互に類似してゐる作用は、夢見る人、催眠状態にある人及び狂人に於いては藝術家或は詩人に於けるとは全く異つた原因によつて生ずるものと主張します。精神生活の至高至難な働きは、その獲得し得た精神生活の聯絡を、今意識の視點に現はれてゐる知覺、表象、並びに状態に働かせる所にあるのです。この働きは夢と

狂氣の内では止まつてゐます、言はゞ印象、表象感情を現實に適合させてをく調節器が缺けてゐるのです。そこで心像は氣まゝ勝手に展開して結び付くのです。之に反して詩人の想像方に於いては之の聯絡が活躍してゐます。たゞ感情、情緒、感性的組織の非常な方が、現實の限界を超えた心象の自由な展開をもたらずのです。天才は決して病的な現象ではありません、否健康な人完全な人なのです。

私はこの命題を證明しませう。まづ覺醒時の常規を逸した状態の分析から。妄像がその内で募つて行く精神病には共通な特徴が存してゐます。精神病患者は、獲得し得た精神生活の聯絡を今意識する表象、感情或は衝動に利用する事が出来ません。それ故に彼等の表象構成には、あらゆる健全な人々に共通な確乎たる尺度による統制作用が缺けてゐます。その外、幻覺、痲痺、自己意

並びに同類意識の變化等、いかなる障害を併ふにせよ、常に精神病には之等の障害と共に、獲得し得た精神的聯絡の力の減少が結びついてゐます。通例、精神病に特有と見られてゐる特徴が、こゝからその根據を得るのです。グリージengelは、かゝる特徴を、精神過程に對する充分な外的機縁の除去と、それに併ふ外界への調和的關係の喪失のうちに見出してゐます。けれどもこの精神病に特有な本質的特徴は更にその特徴の根柢をなすものへ遡る事が出来ません。

積極的な刺戟現象が現はれます場合にも、たゞ精神生活の聯絡からの統制作用が、もはや充分に働きを及ぼさない場合にだけ、その刺戟が外界に對する調和的關係を亂す事が出来ません。即ちこゝに、その病の發生に對する我々の理解し得る最終の心理學的制約が存するのです——そしてこの精神生活の聯絡こそ我々の有する種々の表象や、我

々の感情で與へられる價值規定や、我々の意志に生ずる目的を抱括するものなのです。之の聯絡は單に内容に存するのみならず、又内容相互の種々の結合にも存するのです、之等の結合は、表象の關係として、價值評價として、目的の序列として經驗され體驗され、しかして後に精神生活の聯絡の内に配列されます。この全體を我々のいかなる者に於いても一つの組織が整へてゐます。刺戟のたわむれが外界から感覺、知覺、表象を呼び起す。すると多様な感情の中で之等變化の自己の生に對する價值が經驗されます。しかして後に感情に刺戟された衝動と意志作用とは再び外界に反作用を起すのです。我々の自己の生と、その生活が生き悩み働く環境との間の、この絶えざる相互作用、之こそ我々の生活なのです——さてこの精神生活の聯絡は、意識の視點に現はれた表象或は状態ツシユケンドに働きかけます。それは所有され、活動してゐ

ます、しかも意識されてはをりません。その一つの成素は明瞭に表象されてをらず、又判然と分たれてもゐません。その結合も區別できる様に現はれてはゐません。しかも意識に現はれる表象と状態とは之の聯絡に對してその位地が決められ、之れによつて限られ、制約され而して根據を得るのです。我々「凡人」に於ては之の精神聯絡が莫然と所有されてゐるのに應じて、之が情緒や印象を統制し支配する事も莫然たるものです。(しかし天才に於いては)この聯絡が完全であるために、本質的なものを見る眼が與へられてゐます。天才とはその眼の事なのです。精神生活のこの至高至難な働と比較すれば、論理的推論の働きの如きは意識或は又腦髓作用のエネルギーを遙かに少しばかり要しません。何故かと云ひますにそれは、その目的のために意識の内に現はれてゐる僅かばかりの概念間に外的な比較や關係をつけるだけのものなの

です。この様にして獲得し得た聯絡は非常に
 繊細なしかも力強い仕方です。統制的に働くの
 之は、現實に對してかち得た洞察の全體と緊密な
 關係を保つてゐます。その精神的聯絡力が減ずる
 時には、精神は己れに加はる感情の壓迫を我がま
 ゝ勝手に解釋する様になり、様々の幻覺が現はれ
 るのを統御する事が出来なくなり、推論の筋
 道は残つてゐますけれど、その微妙にしつかと結
 び合つた實質を失つてゐるのです——私は此の心
 理學的説明の傍に生理學的な對應像を並べませう。
 大脳皮質には、表象の再生と結合との條件が蒐集
 貯藏されてをります。大脳皮質は、皮下中樞が兩
 半球に投げる箇々の刺戟に對して、言はゞ大きな
 調整器、制遏器、調節器であります。之の装置の
 ノルマルな働きが、衰弱或は病的興奮のために、
 止まつた際に、刺戟のたわむれは勝手になり、又
 表象活動も不規則になります。皮下中樞から兩半

球に投げられる、かくの如き刺戟現象が幻覺なの
 です。かゝる幻覺そのものは、主觀的性質のもの
 である。云ふ意識を併ふ事が出来、又しばしば併
 はれてゐます。けれどもかの大調節器が停止した
 際には、それは現實性の性質を得きたつて妄像の
 基礎になるのです。しかる時には通例、同類感に
 病的な變化が起り、從來獲得し得た價值規定に於
 て、何等の標準を持たなくなります。異常の精神
 状態によつて維持され、或は更に同時に幻覺によ
 つて支持されてゐる偏した解釋又は推理は、もは
 や現實に於て發展し、現實と調和してゐる精神生
 活の聯絡を以つては統制されません。こゝでは論
 理的思考も表象の記憶再生も何等の役に立たない
 事が分ります。之等の働は、大脳活動の力が減じ
 た時にも尙可能なのですから、依然として残つて
 はゐるでせうけれども、最早何の役にも立ちませ
 ん妄念が生じてくるのです。

夢は狂氣に似かよつてゐます。この「精神生活の聯絡が力を失つてゐると云ふ」點に於いて、今や我々は兩者の類似の最も手近な理由を認識するのです。睡眠が初りそれが繼續してゐる間、腦髓の血液循環に變化が起ります。大腦皮質の働きの異つてきます。かゝる條件の下に於いて我々は、こゝに於いても亦精神生活の獲得し得た聯絡がその力を阻止されるのを見ます。眠りが深ければ深ただけ、この聯絡は箇々の刺戟、聯想それから、思考過程のたわむれを統御し得なくなるのです。同時に感覺の門も閉ざされてゐます。たゞとゞれ／＼な不確な印象だけがしのびこむのです。こゝに夢の心象が成立します。又これ等の心象を相互に結びつけて行く内容のとぼしい夢の推論が成立します。こゝにいふわけで、この場合にも獲得し得た精神的聯絡の働きの低下してゐると云ふ事が、心象の氣づいた展開に對する明白な條件なので

す。同様の條件が催眠状態或は麻酔に於ける心象の出現に對しても成立してゐます。

天才の想像方は之等の状態と全然正反對に心象並に心象結合の自由な展開を示すのであります。それは精神的聯絡の大なる力によつて心象、感情及び想像表象の全く非凡な強さから生れてくるのですから。——精神生活のあらゆる形象は知覺から構成されてゐます。ダンテやミルトンでさへ地獄の焰を描くのに、ごこの臺所にでも燃えてゐる火を用ひました。そしてもし、フィッシュヤーと共に、湖岸の杖建築に住した我々の祖先の氣分を想像しやうとするならば、我々の感胃及びリユーマチに據つて想像するの外はありません。特に詩人に著しい點は、まづ色彩の濃厚な心象の豊富さです。その心象は彼の記憶にしみついてをります。私の見たすべての詩人は偉大な語り手でした。それ等の心象は感情と情緒の感動の力に充ち／＼てをりま

す。それ等の心象はそれに對する獨立的な興味に培れて思ふがまゝに伸びて行きます。何故かと云ひますに、通常の人にとつては、彼の知覺とは、彼が種々目論見を立てる際に一定の位置を占める何物かに對する、符牒なのでありますから。之に反して藝術上の天才は、何等の意圖なく又考慮もなく、全く自由に見知らぬ國の景色に見惚れる旅客に似てゐるのです。暗い莫とした衝動が、すべての器關を働かして人生のあらゆる豊富を把みとれとうながすのです。シェクスピアは地主の子としてをひたち、やがて辯護士の書生となり、ついでは、まだ殆んど少年の日の間に愛と結婚の經驗をあとに、漂ひ流るゝロンドン生活の太平洋に投せられ、その後を極めて錯綜せる境遇の中に過ごし、そこでは英雄的な情熱が赤裸に現はれ、血なまぐさき國家行動が萬人の眼前に行はれたエリザベス時代の内にあつて、いかなる經驗を蒐集した事であつたか。セ

ルバンテスは、法王の使節の祕書として、あまたの戰場に於ける戦士として、奴隸の鎖の内に、著作家の職業の内に、いかなる生活を味はつた事であつたか。ディッケンスは次々に徒弟となり、辯護士の書記となり、議會に於ける、英國のあらゆる街に於ける報告者となり、ヨーロッパにもアメリカにも精通し、そして到る所に、學校に於いても牢獄に於いても、癡狂院に於いても官殿劇場に於いても、人間を研究して、いかに無数の像を集めた事であつたか。偉大な創造的な詩人は、怠惰な人生の傍觀者ではありませんでした。否彼等は人生のあらゆる喜劇と悲劇の中で共に泣き共に笑つたのでした——。我々は更に進みませう。之等の經驗より産れ出づる記憶心象と想像表象とは大詩人の感性組織の内に於いては異常な性質を有してゐます。フェヒナーが初めて心象の差異を描寫の明白さ、感じの強さ、感性界への投射の方に關して研

究しました。抽象的な頭腦に於ける、殆んど無色の定形なき影の如き心象から、感性の空間に投射された、形の明らかな色彩の強い形象に到るまで、様々の段階が連つて、その頂上には藝術家、詩人が立つてゐます。彼に現はれる人物の姿は彼の眼前を動き、その聲を彼は聴くのです。彼等の惱みと彼等の運命とは彼にとつては現實なのです。ドイツケンスは、その物語り「シルベスターの鐘」が終りに近づいた時、こう書きました。「どうしても起らねばならぬ筋を思ひ至つて以來、私はそれが何か實際の事であるかの様に、惱みと動亂を堪へねばならなかつた。それを書き上げた時、私は家に閉ぢこもつてをらねばならなかつた。それは私の顔が倍にも腫れあがつて、恐ろしく滑稽になつてゐたから」。バルザックは子供の頃から記憶心象を知覺同様鮮明に見たのです。彼はその「アラビヤンナイトの回教僧の様に他人の魂と身體とに變る

事の出来る」不思議な能力を、覺めたる夢、或は第二の視覺に比してをります。フロールベルは語つてゐます。「私の想像力が産む人物は私を亂し私を寤める。と云ふよりむしろ彼等の生命が私の生命なのです。エンマ・ボバライが毒をあふぐ様を描いた時に、私は舌の上に砒素の味をはつきりと感じ、私自身が正しく毒をあふいだ様な氣持で、つゞけさまに二つの消化不良、二つの實際の消化不良を起した程です。と云ふのは私は私の食事をすつかりもごしたのですから」。そしてゲーテはシラーに語つてゐます、自分は本當の悲劇を書かうと目論むだけで既に恐怖を覺える。自分がその試みによつて破壊されはせぬかと信じる位だ——。我々は再び歩を進めませう。さて之等の心象は詩人の内に於いては、現實の壓迫を脱して自由に展開して行くのです。出来るだけ完全な出来るだけ持續的な満足を中心に與へる様に、と云ふ法則に従

つて。現實生活に於ては、欲求と享樂とが、轉々
とあわたりしく變じます、幸福は現實生活の只一
時的の銀の燦きです。之に反して偉大な藝術作品
には時の流れに流されぬ安靜さが漂ふてゐます。

それと云ふのが立ち戻る觀賞者を充分な満足を以
つて酬むるからです。之が美の唯一の本質的特徴
なのです。しかも詩人は意圖してその方向に心象^{ビルド}
を展開させやうと努めてゐます。彼はこの美的假
象の王國を現實から離します。かくして詩の夢幻
的な領域が現はれて、心象はその領域で感激の瞬
間に完全な實在性を獲るのです。こゝに現はれる
種類のイリュージョンを、遊戯する小供に於いて見る
ものと比較する事が出来ませう。藝術は遊戯です
詩人も遊戯する子供も共に信じてゐるのです、子
供は人形や動物に生命がある事を、詩人は彼の人
物の實在性を、がしかし兩方共信じてゐるのでも
ないのです——。こうゆう譯で藝術家、詩人は感

性組織の異常な力をもつてゐますが、しかし又そ
こから生ずる美的假象を蔽ひ難き現實と分離して
〔兩者を混同しない〕點に於て健全なそして完全な
人なのです。

III

私達は、心象^{ビルド}が現實的なものゝ上を超えて自由
に展開して行く條件に大きな差違がある事を見て
きました。けれどもその展開は常に同一の種々な
法則に従つて行はれてゐるのです。そこで我々は
「かゝる法則は如何なるものであるか」と云ふ間に
面するのです。更めて我々は夢、精神病、天才に
於ける過程にふり向きませう。この心象^{ビルド}の展開と
生理學的過程とがいかに關係してゐるかは我々に
は未だ明ではありません。けれども心理學的に見
ますと、之等の過程の内に於いて既に自然が我々
のために實驗をしてをしてくれました。自然は

種々様々に獲得し得た表象の統制力を減じたので、す。で、さもなくば氣付かずに終り易い生命の法則を認識させて呉れるのです。

現今流行の心理學では、表象は不動の固定物として取扱はれ、それらの表象が相互に再現し合ひ、又排斥し合ふ法則が立てられゐます。(ヘルバルトの心理學の如きか)。之等の法則は有用なものではありませんけれども、抽象の産物です。實際の精神生活にをきましては、心象^{ビルド}、即ち分析されてゐない一個の表象の運命は、感情に依存し又注意の分配に依存してゐます。心象はそんな風に衝動的な力を有つてゐます。心象は生命です過程です。それは成立し展開し又消滅します。同じ表象は二度と戻つてきません、落ち葉が春、新に歸る事のない様に、この心象の生きてゐる證據は三四の極めて注目すべき過程の内に現はれてゐます。部分が消失し或は除外される事によつて、心象は變じます。

物理學者が夢の中で空を馳る時、重さの經驗は彼に失はれてゐます。畫家がモデルからマドンナを描き出す時に、さわりになる點は除外されます。心象が擴大し或は縮少する事によつて、又心象を成立させてゐる感覺の強度が強まり或は減する事によつて、心象は變じます。夢見る人には、本の落ちた音が**大砲の音**にきこえ、隣りの人の**野が**、怒濤に聞え、足の裏に湯たんぽを感じながらエトナ火山の頂上を歩いてゐると信じてゐます。或は心象の數が増加します。ふと見ると自分のわきに見知らぬ人が座つてゐる、見なをして見ると二人ゐる、澤山見知らぬ人がゐる。或は心象が擴大します。催眠状態の人にマツチを差し出すと、彼にはそれが**火事**になつて見渡す限りに廣がつて行きます。ヒコボン德里の人や精神障害の人を壓迫してゐる所のものも、**こういふ風**にして、遙かに事實以上に出て行くのです。心象と心象結合は、そ

の一番の核心へ新しい成分と結合が這入りこんでそれを補ふことによつて變ずるのです。聯想は屢々かゝる變化を導き入れます。それ故に造形藝術家のスタイルは彼の想像の習慣シキカクによつて影響されるものなのです、彼が物を見る時に既にその習慣が導いてゐるのですから、彼は形體をほつそりと眺めます。彼はそれのある定まつた材料の制約の下にその物體を眺めます。しかし私は特に詩に重要な一つの過程を高調しませう。我々精神物理的な者に於ては、内界と外界の關係が與へられてゐて、我々は之をどこにでも適用します。我々は我々の状態を外界の形象ビルドによつて解釋し或はそれに姿をあたへ、外界の形象を内面的状態によつて生動させ或はそれに精神を與へます。こゝに神話と

そして哲學と、だが何よりも先づ詩の力強い根元があるのです。藝術作品の中核をなす觀念性イデアリヤイトは、かく感動的な内面的状態を外界の形象ビルドによつてシ

ンボライズし、外面的な現實をば、内界状態の洞察によつて生動させると云ふ事の内に存するのです——。心象の核心に於けるこの變化は時間過程の内に起ります。何故かと云ひますと、注意の力は限られた量のものですから、時間の過程に於いてのみ心象を構成する事が出来るのです。かくして心象は展開して行きます。

之の過程からしまして、詩人達が彼等の内に於ける想像力の作用についてなした告白が理解されるのです。想像力の最も簡單な場合、言はゞ根本現象ウンゼンは、ゲーテが自分に於て觀察した心象の展開に存してゐます。「私には一つの天賦があつて、眼を閉ぢ頭をたれて、眼の中央に花を想像すると、花は一瞬も最初の形には止らずしてばらばらに解け、その中からまた新らしい花がどうも青い様な色をした葉を分けて咲き出て來るのであつた。その花は自然の花ではなく空想的な花で、しかも彫

刻家のバラ模様の様に規則正しいものであつた。

この濼測と産れ出るものを固定する事は出来なかつた。尙ゲーテは附加してゐます。「詩人とすべての眞の藝術家は産まれたものでなければならぬ」と云ふ言葉が何を意味しようとするのか、一層はつきりと判るであらう。すなはち内面的の創造力が、かの記憶の内に留められたる偶像イデオラを自由に何の成心なく又意志なく生き／＼と現はさねばならない。それ等の偶像イデオラが自ら展開しなければならぬのである。」と。最高の精神過程と雖も生理的に制約されてゐると云ふ事實が到る所に示されてゐる。十九世紀の眞の小説、親和力のなかで、ゲーテは夢幻の間にあるオツテイリエに、今はいない戀人を、照らし出された空間の内の様々に變る境遇の下で眺めさせてゐます——。さてロシヤの詩人ゴンチャロフも詩の成立する想像過程ファンタジイ・プロセスを描いてゐます。之の過程はゲーテが自分に於て見出し、そ

して我々想像の貧しき者は、その類似の現象を假睡シュルンメル・レンドの心象に於いて體驗する、想像の根本現象に近いものであります。「いつでも私の前に、ある人物と、それに併つて一つの根本動機ハインキチイフが浮ぶ。之れに導かれて私は前進する。その折には、筆の續く事が出来ない程早く仕事をやる。つひに一つの壁に突きあたる。それでも私の頭は活動をつゞける種々の人物が私をじつとさせてをかない、色々な場面の内で現はれて来る。私は彼等の會話の斷片を聞くと思する、そして之まで幾度も私にはそれが單に私の頭の中の事ではなく之等すべてのものが私の周圍をとりまいてゐて、私はたゞそちらを見さへすればよいのだと云ふ氣がした事がある。」このゴンチャロフの告白に加へてあなた方は、感情と情緒が心象の變化に及ぼす強い影響の描かれてある、他の告白を御覽になる事が出来やう。シレルルは、「感激の創作」がしば／＼「熱切なる感

情を吐露したいとの莫たる欲動」によつて産み出

だされるものなる事を述べてゐます。アルフィエ

リは、彼の大部分の悲劇が偉大な音楽を聴いて
ゐる内に或はその後で構想を得たと云ふ事を傳へ
てゐます。クライストは音楽の法則の内に詩を理
解する鍵を見出したのでした。

そこで之等の告白を前にあげたものとまとめて
御覽にならば「世襲森林宮」の詩人ラット・ルード
ウイフヒのこの様な告白も、最早不思議には見えな
いでありませう。「私のしかたはこうなのである。
まづある音楽的の氣分が先だつ、それが色に變る、
すると私は人物を見る、一人の時もあり多人數の
時もある、位地も態度も色々で、一人の時も向き
合つてゐる時もある。不思議な事にその人の姿も
その群の姿も、通常カタストロフに於けるもの
ではなく、多くの場合唯々ある感動的な位地にあ
る、性格の著しい姿にすぎない。最初に見られた境

遇から或は前方に或は終末へと、絶えず新らしい
彫塑的身振的の人物と群像とが結びついて、私は
遂に全篇を得るのである。之の總ての事は極めて
迅速で、私の意識は全然受動的な態度をこる。」

こうゆう風に詩的想像の制作の内には心理學的
法則が支配してゐます。之等の制作は感情の中か
ら形造られてゐるのですが、又同じく感情を沸き
たゞせます。それ故、すべて眞正の詩歌は、力強
い生なまなのです、しかし悟性にとつてそれは把へが
たきものです。ゲーテは「計算し難き」と申しまし
た。それは、ペダンティックな詩學が假定する様に
一つの思想イデーを述べるものではないのです。けれど
も法則に従つて生ずるのです。さうして想像力が
詩人の内に働く之の合法則性から、詩歌が典型的
なものの、理想的なものを創造すると云ふ事になる
のです。我々は既に夢と狂氣とに於て、感覺と内
面的状態とには、いつもその状態を解釋し説明し

そして表現する、ある一定の心象が著しい規則正しきで結びついてゐるのを見ました。それは一種の貧弱な萎縮したシンボルなのです。人々は之等の典型的心象の圈を記述する事が出来るでありません。しかし人類の中に於いて「この貧弱なシンボルから進んで」豊富に、しかも法則的に神話、形而上學、詩の偉大な確乎たるシンボルが展開して行きます。よしんば之の地上に於ける生命が枯縮して、どこかに新しい人類が同一の萌芽から生じたとしても、又同一の限定された數の動機、境遇をして典型が生ずる事でせう。フアウスト、リチャルド、ハムレット、ドン・キホーテの、本質は繰り返へされざるを得ないでせう。新たに又人々は謙讓な若者——ウイルヘルム・マイスター——或はコツバーフヘルド、まだく彼は外の名を有つてゐます——が、簡単な生ひ立ちから逆境を経て自由の生活にまで登つて行くのを見る事でせう

何故かと云ひますに、それが本當に我々近代のイリアスとオディッセーなのですから。之のすべては巡つて來ざるを得ないのです。何故かなら、同一の法則が常に人類の想像力とその本性とを支配してゐるのですから。その研究に生きる人は幸であります。

當軍醫學校の創立者は、人間性のかゝる全面的な考察から流れ出づる人道的精神が、將來醫師たるべき人の心の内に育はぐまれん事を欲したのです。それで創立者は、その學校の課程の内に、哲學にも相應の場所を許して呉れたのです。かゝる高貴な心情が常にこの場所を支配してをります様に、我々があらゆる高貴なる、人道的なる、しかして高尚なる心情の模範と崇めてをります我々のカイザー陛下に、神の護りのあらん事を。(十一月八日)

之の翻譯は宇野喜代之助氏の助力による事多し、附記して謝意を表す。「」は譯者の挿入。